

年月日	21	06	17	ページ	08	NO.	
-----	----	----	----	-----	----	-----	--

流体制御バルブ IOT使い診断

金子産業、試験導入企業募る

金子産業（東京都港区、中村善典社長）は、プラントなどの流体制御バルブの動作診断や故障予知保全を可能にするIOT（モノのインターネット）システム「APOSA（アポザ）」の試験モ

ニタリングを実施する。オン・オフ（全開・全閉）弁として使う

バタフライバルブなどを対象に、圧力や開度をセンサーで毎分計測。漏れなどの動作異常をクラウドに搭載した人工知能（AI）で検知する。同社は試験導入する企業を募集している。

依存している。発見が遅れれば操業停止や大事故を引き起こす可能性がある。

アポザはバルブ上部の制御部に圧力センサーや開度センサー、通信機能を搭載した機器を取り付けてデータを計測する。データはクラウドを通じて毎分蓄積でき、AIによる自動解析で異常を監視する。流量調整弁は対象から除く。



流体制御系ではメイン配管から枝葉のように伸びるサブ配管を数多く設置しており、劣化や故障の発見は人力に頼る。バルブ上部に「アポザ」に対応するための機器を取り付ける（金子産業提供）

試験導入ではバルブシステム全体に新設するほか、既存設備への専用機器の後付けにも対応する。応募企業には1〜2年のモニタリング期間を経て、本格導入に移行する方針。問い合わせは同社アポザ事業部（03・3455・1411）へ。